

ポリシー2 ネック

①ヘッドはトーカイのもっとも自信あるところなのだ。全体の形状仕上げ、ネーミング、パグどれをとっても他社の「オールド」モデルとは比較にならないほど「良くできている。つまり、これが本当のクローシアンヘッド」なのである。(カタログ「ハーブ」)

★角のペーパーカッパには、モリスワーク時間をかけているのだ。丸味があって「ナイフ」で「その感じは手にしてみるとよくわかる。

★ポジションマークは現在のストラトよりも少し小さい。

②マテリアルはST-42からすべてメイプルワンピース!! ローズ指板もOK。

③ネックのにぎりにはVシェイプとUシェイプの2種類、Vシェイプは54ストラトと同じシェイプで「俗に言う3角ネック。長時間のプレイにも指がスムーズで疲れを感じないためハイテクを自認するアロミュージシャンは特にこのシェイプが「お気に入り」なのだ。Uシェイプは少し丸く、手になじみどても弾きやすい。高度のテクニックも思いのままプレイできるのだ。



★Vシェイプネック ★Uシェイプネック

④いすれもフレッキング(フレット仕上げ)は完璧といえるだろう。まず、フレットが「押し込まれるフレットみぞ」はフレットの足が入る深さにあわせて、みぞを1本1本たかたかあるので「キミのハードなプレイにもバッチリたじろれる※

①「パグヘッド」はトーカイのもっとも自信あるところなのだ。全体の形状仕上げ、ネーミング、パグどれをとっても他社の「オールド」モデルとは比較にならないほど「良くできている。つまり、これが本当のクローシアンヘッド」なのである。(カタログ「ハーブ」)

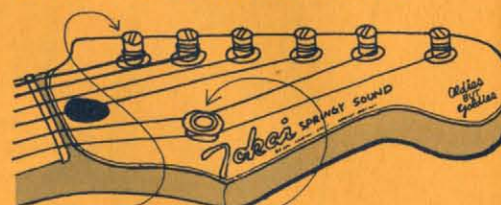
★ネームは「オールド」同様塗装まわりの上に貼られている。ツメで強くひっかいたりすると、とれちゃうんだ。こゝをうまく利用するとオモシロイ???



★ナットは牛骨。トーカイのクラフトマンも、この部分のカイには細心の注意をはらっているから仕上げは、いまでもバツグン!! ギターの重要なポイントだから時間をたっぷりかけたのだ。ミュージックショップで「そのまじろえをじっくり見て欲しい。

トーカイの 徹底と超え

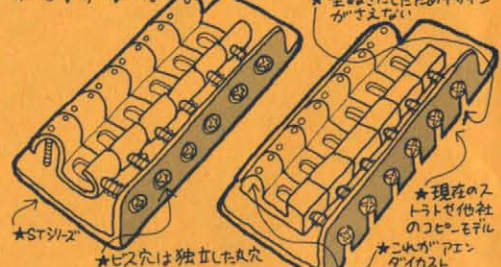
※ギヤは高性能2条ギヤでガタつきなし!! エレキを愛するプレイヤーには最高の贈り物となったのだ。重量が「ロートマチックパグ」よりも軽いので「オールド」の持ち味である「高者域」が「キミの想像をこえる」はずだ。もちろん低音は、やはり「あつあつ」な事はいうまでもない。以上の説明はすべて「音づくりに深くかかわり、直結している。つまりSTシリーズの本質の一端なのだ。もう一度、読み直しても損はないヨ。



★「ストリング」ポストが短い。★「ストリング」ガイドも「双型」1ヶだけ。この「弦」のテンションが「バッチリ」かかる。

ポリシー4 シングルコイル・トレモユニット(ブリッジ)

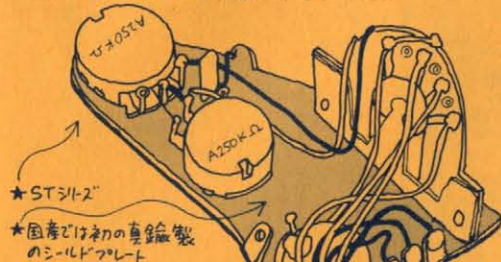
これも新開発のトレモユニット。どこが優れているかというと、「54ストラトのあの微妙なサウンド」が「アレスカロ工場のブリッジ」が創り出したことに注目し、これをそのまま採用した点にある。現在の「アレスカロ」も、また他社の「オールド」コピーモデルに比べて「カスト」になっているのはなんと残念なことだ。またトレモユニットの「パワー」を100%発揮するための「トレモ」アーム特殊合金の採用で「耐スカ」は「クハ」とアンプ。アーム折れはほとんどないのだ。もちろんユニット自体の「ネジ」も「折れ」も「まず」ない。



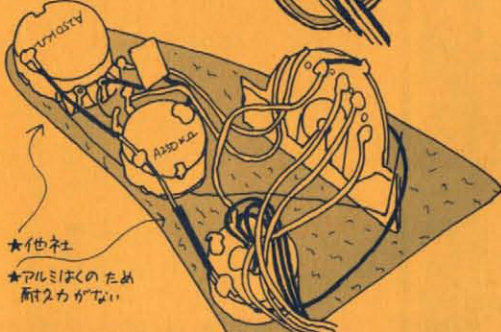
★型ぬきしたため「デザイン」が「できない」 ★現在の「ストラト」で他社の「コピー」モデル ★「この」が「アレスカロ」の「アーム」 ★「ビス」穴は「独立した」穴

ポリシー6 配線シールド部

シールド「アレット」を採用、そのため「長期」にわたって「安定したシールド」効果を発揮する。配線の際にも「リアブリッジ」の性能を低下させないよう「別に」端子を「設けて」ハンダ付けしてある。メンテナンスも「ラク」なのだ。ギターは「このぐら」いの「入込」だ。配線が「必要」なのだ。



★「STシールド」 ★「国産」では「ネ」の「真鍮製」の「シールド」アレット



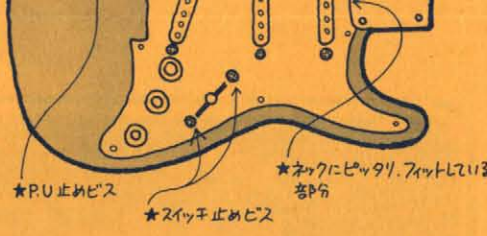
★「イセ社」 ★「アルミ」は「の」ため「耐スカ」がない

ポリシー7 ピックアップ

「54」ストラトの、あの「スプリング」サウンドは「現在の」ストラトと少し「違う」のである。どちらも「甲乙」つけがたいが、「99」の「アロミュージシャン」が「絶賛」するのは、やはり「オールド」サウンドの方なのだ。これは「い」に「経時変化」による「言わ」れている「設計」時点



★「ピックアップ」 ★「この」高者域と「シャ」アームの「枯れた」味わいがある「トーン」を「再現」するため「2種」※



ポリシー9 ビス類の考察

「STシリーズ」に使用されているすべてのビスは「新設計」(旧設計)なのである。理由は「簡単」。「54」ストラトの「トータル」フィニッシングは「ビス」の「形状」にもある。という「ポリ」で「製作」されている「から」である。特に「PU止め」ビス、「スイッチ止め」ビスは「オールド」と「まったく」同じ。これを「成し」上げたのは「トーカイ」の「アロ」プロジェクト「チーム」だけなのだ。

ポリシー10 ハードウェアのメッキ

STシリーズの「金属」部品には「1号」メッキが「施さ」れている。3つは「2号」メッキといって「5~10ミクロン」程度の「もの」であるが「トーカイ」の「メッキ」は「段違い」なのだ。この「1号」メッキは「高級」装飾品以外には「め」に見えなく、深い「味わい」があり、「強度」も「たか」か「バツグン」なのだ。特に「トレモ」アームに「ついては」公式「測定」によると「35ミクロン」もあり、「2号」メッキに「くら」べ「トーカイ」の「1号」メッキは「まさに」超一流!!

ポリシー11 アミング

「ストラト」の特長である「アミング」サウンド。古くは「バン」キーズ「から」ジミー・ハンドリックス、リッキー・ブランクモアに「至る」まで「その」ダイナミックなサウンドは「実に」魅力的で「ない」が、だが「者」程が「極端」にくるって「しまい」、どうにも「しま」らないという「経」験は「だけ」に「ご」も「あ」たし、また、「いま」までは「ど」も「当」り前「的な」考「え」の「アレスカロ」が「99」だった。サマエ、サテ、ビックリ、その「くら」いが「STシリーズ」では「極端」な「り」なのだ。理由は「いま」までの「説明」の「な」が「た」び「た」び「出」ている「が」ここ「で」ま「と」め「て」お「よ」う。

- ①弦に「テンション」が「バッチリ」まいること(「パグ」設計が「good」!!)
- ②ナット(上「枕」)の「カ」工「が」「バ」ス「ト」で「ある」こと
- ③トレモユニットの「トータル」な「精」度「が」良いこと

等々による。これに「アレスカロ」エレキを知りつくした若きクラフトマンが「完璧」に「調整」し「出荷」している「もの」も「強い」。

●結論:「ハ」デ「ン」宣伝「で」な「ま」ま「ど」め「さ」す「は」い「け」ない。もう一度「全部」を「くり」読み直して「キミ」が「す」ば「ら」しいと思「った」ギターを「選」んで「く」れ「た」ま。その「ギター」は「ま」ま、キミにと「つ」クインとなり「ハッピー」な「ミュージック」ライフを「エンジョイ」できると思「う」。トーカイでは「キミ」の「真」剣な「アタック」を「ま」っている。接「近」し「て」み「ない」が。